

令和3年度 ファルマバレープロジェクト第4次戦略計画検討委員会 議事録（案）

日時：令和4年2月8日（火）午後2時～午後4時

会場：オンライン

1 開会

2 挨拶

静岡県 経済産業部 部長 三須敏郎

3 事務局説明

(1) ファルマバレープロジェクトの進捗状況について（報告）

<事務局：経済産業部理事 村松毅彦>

- ・資料2に基づきプロジェクトの進捗状況を報告

(2) ファルマバレーセンターの取組状況について（報告）

<ファルマバレーセンター：ファルマバレーセンター長 植田勝智>

- ・資料3に基づき健康長寿・自立支援プロジェクトと創薬探索研究事業について報告

4 山梨県の取組紹介

<山梨県：成長産業推進課長 若月衛>

- ・資料4に基づき山梨県の取組について紹介

5 意見交換

（委員の主な意見）

- ・ 20年の歴史のある会議に参加し、大変感銘を受けて説明を受けた。
- ・ いろいろな面を通じて大いに協力していきたいと思う。力を入れて支援をしていきたいと考えている。
- ・ 一番期待していたのは、現地の見学だったが、それができなく残念である。できるだけ早い機会に特に説明のあった「3歩の住まい」をぜひ拝見したいと思った。いろいろな面から興味を持っている。
- ・ 見学者が多くいることがわかったが、体験入居、せめて4、5日から一週間くらいそこで暮らせるというようなモデルルーム施設を作って欲しい。老人だけが体験するものではなく、三世代セット暮らすことができるようなモデルルームを作ってみてほしい。
- ・ 孫と子供と一緒に老人が暮らすことで、たくさんの発見があるはず。その発見が大事だと思う。
- ・ それほど数は多くなくてよいので、参加者を公募すれば、応募してくる人はいると思う。私も応募したいと思っている。将来考えてほしい。

- ・ 「人生100年」では、老化、人生の後半に焦点が当てられていると感じる。乳児・幼児から老人まで全てを対象としていきたいと考える。いろいろな世代のニーズを考えると新しいシーズが生まれるはずである。
- ・ 自然災害に関心がある。場所柄、富士山の溶岩流が流れてこないという保証がない場所であり、いろいろなときに研究の財産を守っていかなければならない。火山の噴火、地震、津波、洪水といった自然災害に対する研究システム全体の安全がどのように担保されているか、そのようなことについて、たまには研究会議を開いて考えてみるのも必要かと感じた。
- ・ 20年間で実績を積み上げてきた。
- ・ 第4次戦略計画のスタート年度において、新型コロナの影響でなかなか計画どおりに研究開発・その他も進まない状況かと思っていたが、着実に進められていたようで嬉しく思う。
- ・ 今まさに、SDGsとして、経済だけでなく、社会・福祉・健康・医療といったところに関心が高まっている中で、20年前からこうした両立した地域を作り上げていこうと動き始めたのは、非常に先見の明があったかと思っている。私も係わっているが、誇らしいプロジェクトになっていると感じている。
- ・ 地域企業の参画については、実績はあるものの、より多く参画してもらいたいと考える。山梨県のように積極的に、県東部の新たな企業に関わることができる仕組み、仕掛けに取り組んでいく必要がある。
- ・ ICOIプロジェクトは、温泉を活用した健康産業の創出や、いろんな研究開発あるいはデータに基づく施策を進めるということで、ファルマバレープロジェクトと繋がるものだと思う。
- ・ 世の中の動きが加速化する中、その変化に対応したスピード感で取り組んでいただきたい。
- ・ モデルルームの実装化については、高齢者だけでなく、障害者の方々も使えるようなところを期待している。
- ・ 「ひとづくり」に興味がある。沼津高専によるf-metや静岡がんセンターの認定看護など、静岡県が端緒を切って、例えば、高専を中心に人を作るとか、そこでいろいろな資格を県として認定していく養成のプロジェクト、システムを作る。病院で認定というシステムを作るというところを全国に先立って提示してきた。他の県でも、施設で専門性を活かした認定、人の育成ができるのかというところで伸びてきた。
- ・ 成果として医薬品・医療機器・化粧品生産金額という形、お金というところで最終的な評価があったが、そこで人の数、流入者などの別の評価指標、人を育てているというところを出して、静岡が先陣を切って、これから人口が増えない中でどういう風に豊かさを追求できるのかというモデルを示せるといい。人の流入や教育について指標化のモデルを出していけるとよい。

- ・ 静岡県は、県立大学とのつながりは強いが、HOPEにしても、県として公的な役割を担ったところの連携が強いところだと思う。人をどう育てていくか考えるときに、私立大学、大学院との連携も非常に大切になってくる。国公立だけでなく、私立とも連携することで、全体の活力が上がるというのは非常にやりやすいのではないかな。
- ・ コロナ禍でオンライン化が進み、可能性が広がっていると思う。オンラインという形が可能になり、それを国が許してくれるということが分かった段階で非常に世界的な展開も教育で可能になる。
- ・ 最近、熱海で私立大学が主となって高齢者に対して、手厚い検診事業などもされているということを知った。それを県立国立で情報共有することで県全体のレベルを上げるような形に持っていけるとよい。
- ・ いろいろな基盤は人づくり、人育てであり、これは20年以上、一世代二世代かけて文化ができあがると考えるので、長期で頑張って育てていかなければならない。20年といえれば、食育で育った子供たちが大学生となる時期だと思う。山梨県とも教育面でも連携した教育でF-metの教育が行われているという話もあったが、非常によい形でお互いの財産を公開し、切磋琢磨していければと思う。
- ・ ちょうどコロナということで、ある意味、風穴が空けやすい部分も出てきたので、ぜひそのあたりを活かしたものも延ばしていただきたい。
- ・ 企業側からみると、手を出しにくい部分もあると思う。
- ・ モニターとして企業の従業員に参加してもらうなどの協力も考えられる。
- ・ f-metについて、安全情報と品質保証の講座で企業従業員が講師として参加した。受講者の反応もよかったようなので、専門性を持った企業の従業員が活躍できるような協力もあると思う。
- ・ 三島駅前の再開発のスケジュールが決まり、着工が2023年6月、町開きが2027年3月となった。三島駅前にファルマバレーセンターの出先分室機関があってもよいのではと考える。ウーブンシティは、入居者は発明家であり高齢者でもあり、また子供を育てる世代を中心にしていくと話をしている。そのような方たちと手を組めるように駅前に場を作るのがいいのではないかなと思う。ぜひ再開発の方に提案して行って欲しい。
- ・ 「3歩の住まい」のようなモデルルームが三島駅前のマンションの中にあってもよいと思う。
- ・ 20年の長きにわたり、医療関係者だけでなく、大学や企業等の関係者も一緒に取り組んでいることに感心した。
- ・ こうしたプロジェクトの情報が医師会や開業医などにも伝わるとよい。
- ・ コロナ対応の技術開発についてもファルマバレーが絡んでいること、県立大との連携が進んでいることなど、さすがだと感じた。産学連携が進んでいる。

- ・ 山梨県では、山梨大学と連携し、力を発揮していると説明があった。静岡県にも国立大学があるので連携を検討してほしいが、難しければ、山梨大学や東京の全国レベルの大学との連携を検討すべきである。
 - ・ 今回、話が少なかったが、スタートアップについては、金融・経営支援や人材育成支援などが神奈川県、川崎市などの取組と比べて手薄であると考える。
 - ・ 静岡にも志の高い人材や学生などの若い人材がいるので、引き上げてサポートできるような体制を検討していただきたい。
-
- ・ 成果として147件の製品化が進んでおり、かなり進んできたと感じる。一方で、一般の方が認知している商品が少ない気がする。
 - ・ 穿刺針の支援装置については、自分も針を5回くらい刺されて青痣になるような経験があり、そういうものができると嬉しい。
 - ・ 製品を作るだけでなく、ブランディングも重要である。医療機器等は、薬機法の規制があり難しいかとも思われるが、147件一つ一つは弱いので、結びつけてファミリーブランドのような形にして、ロイヤリティを得られる仕組みにできないか考える。
 - ・ 「3歩の住まい」いろんなメーカーとコンソーシアムを組んでいろんな製品ができて、素晴らしいと思うが、寂しいものを感じる。もう少し希望の持てる住まいのコンセプトにしてほしいと感じる。また、営業組織を持つべきなのにコンソーシアムに営業能力のある企業が入っていない。実際の営業を出来る形をどのようにするか考えていく必要がある。
 - ・ 静岡がんセンター単独で2,200人の雇用があると説明があったが、ファルマの副次成果として出してほしいのは、中流収入層の拡大である。
 - ・ 最近のトレンドからいうと、mRNAによるがん治療やメタバースを取り入れて、今後さらに発展して行ってほしい。
-
- ・ ねじ1本でも無限の可能性があり、夢と希望があると若い人には感じてほしい。
-
- ・ 20年前にかなり多くの時間をかけて作り上げたファルマバレー宣言のもと、現在に至までの期間、山口総長の素晴らしいリーダーシップのもとで、がんセンターは世界的な評価を確立し、周辺の産業集積をはじめこれだけの範囲をカバーした素晴らしい実績を挙げられたことを高く評価したい。特に行政の皆様は担当が変わりながら、一貫性を失うことなくプロジェクトを進化させられた事実は、自分が知る限り世界にも例が無い誇るべき実績である。
 - ・ 敢えて当初目指した事項の中で達成し切れていないのは、若い起業家の集積であるが、これはこれからの目標として期待したい。
 - ・ 今回デジタル田園都市構想が話題の一つになっているが、これは新自由主義の終焉とそれに代わる新しい資本主義を標榜する宏池会岸田首相の看板プロジェクトの一つだが、この構想委員会の主要メンバーに、新自由主義の立役者とかつて地方を潰せと主張した

人物が入っている。首相のフィロソフィーが見えてこない。効率一辺倒のウーブンシティも含め、これを安易にファルマバレープロジェクト取り込んで良いのか、注意が必要である。

- ・ 前回は指摘したが、がんセンターを中心としたプロジェクトは大成功で、今後ともこれを深化させ更に発展を続ける必要はあるし、今の体制で成功間違いないと確信している。ただ、今後は常に世界トップのがん医療・産業集積を念頭におき、例えば人材育成策の一貫として県立大学にオンコロジー学部を作ったり、世界最先端のインド工科大学と連携しAI、ロボットに特化した学部作りなどを考えるべきと思う。
- ・ 一方、医療に関しては、超高齢化社会での認知症対策に光をあてるべきフェーズに入ったと思う。大袈裟でなく、パラダイムシフトに応じたファルマバレー構想第二フェーズを考えるべきであることは数年前から提言してきたとおりである。新たなパラダイムに対応した第二フェーズプロジェクトであれば、先ず、その基盤となるフィロソフィーは何なのかを慎重に議論し、その上で推進体制を早急に固める必要があると思う。
- ・ パラダイムシフトへの対応も必要だが、ファルマバレープロジェクト発足当初からの、ファルマバレー宣言は堅持していただきたい。新たに付け加えることがあったとしても、ぜひ堅持してほしい。
- ・ 「ものづくり」については、多くの製品が商品化されている。数年前からは、よりレベルの高い、保険収載されるようなものづくりに挑戦してきている。世界で使われるような腫瘍マーカーもファルマバレープロジェクトでの成果から実現し、新たなゲノム診断薬もまもなく申請し、製造承認を受けることを目指している。
- ・ 新型コロナウイルスに対してもファルマバレープロジェクトはスピーディーに貢献している。テルモのECMOもあるが、定性抗原検査キット、飛沫防止器具が医療機関に提供されている。
- ・ 抗がん剤については、開発できていないのがつらいところであるが、県立大学との連携をしっかりと、もう一度チャレンジし直してほしい。一方、がんの支持療法に用いる薬剤は、分子標的薬の副作用である皮膚症状を改善させる薬剤が実際に患者に投与され、臨床試験を実施している。がん治療薬の第一歩である。
- ・ 「3歩の住まい」が話題になっている。これは、「健康長寿・自立支援プロジェクト」の4つのテーマのうちの1つで、最終段階のテーマで、健康寿命が尽きた後も、自立期間を延長しようという試みである。4つのテーマを合わせ、生まれてから100年間を考えるプロジェクトとして提案している。徐々に成果が上がってくれば、単に高齢者向けという話ではないことを理解いただけると思う。
- ・ 「ひとづくり」については、がん、ファルマに関する大学院ができないか、ハードルは高いが水面下で検討している。
- ・ 「まちづくり」は、県で田園都市（ガーデンシティ）を進めているが、住む環境が良いだけでは発展しない。その地域に雇用が創出されねばならない。また、大都市へのアプローチも必須だが、静岡県の場合、新幹線の活用が期待できる。雇用が創出され、自然

環境が良く、テレワーク・三大都市へのアプローチ至便の地域を活かした住まい、まちづくりを今後取組んで行けばよいと思う。

- ・ 静岡がんセンター中心に全国的になっていて、良い方向を向いている。当初の理念、精神は生きていると思う。
 - ・ クラスターの中心であるファルマバレーセンターを場として再構築してはどうかと考える。新しい産業、新しいネットワークなど新しいものを生み出す場として考えてほしい。
 - ・ 今のファルマバレーセンターだけでなく、駿河台全体をデザインし、開かれた場を作れたら良いと考える。特に人が集まる場所として、静岡がんセンターの先生や企業の方、投資家の方スタートアップの若い起業家などが自由に出入りする場所としてもっともっと開かれた場所を作っていく必要がある。
 - ・ インキュベーターや産学連携の新たな施設を設けるのではなく、デジタルを活用した拠点など、うまくデザインされたシンボリックな場をセットしていくように提案する。
 - ・ 医師、スタートアップを考えている人、イノベーター、全国の優秀な高専の人材、デジタル人材などが自由に集まって議論、活動できる場がほしい。
 - ・ 地域の人々が入り出しているかも重要で、地域の中高生など若い人の考え、意見も入るようにしたい。
 - ・ ファルマバレーセンターをより開かれた場、誰でもわくわくするような創造的な場、人が集まってくる広場として、デザイナーにも関与してもらい、シンボルを含めて総合的にデザインし、あらためて投資をする時期にある。
-
- ・ ニューズウィーク誌で静岡がんセンターが選ばれたのは、国際的にも評価されている証である。ファルマもそれに伴って大きく進展している。
 - ・ がん治療のための創薬も重要であるが、がん支持療法、副作用の少ない治療も重要となる。県立大学は、薬学部はもちろん、食品栄養科学部、看護学部、社会福祉学科など、いろいろな協力できるかと思う。
-
- ・ フィロソフィーが見えなくなっているとすれば大問題である。
 - ・ コアコンセプトが重要であり、今一度の確認をお願いしたい。
 - ・ 患者中心の医療とは何かを考えてきた中で培ってきたファルマバレープロジェクトであるから、成功してきたはずである。
 - ・ 県医師会との連携も重要である。
 - ・ 静岡がんセンターもしくはファルマバレーセンターの施設を使いながら、大学院大学などの人材育成の拠点を作ってほしい。